

- 1 コロナ感染対策における名古屋市の「基本的な方法」について
- 2 名古屋城天守閣木造復元の財源を含めた収支計画の見直しについて
- 3 木曽川水系連絡導水路事業に対する河村市長の発言について
 - (1) 揖斐川のおいしい水確保
 - (2) 治水対策
 - (3) 堀川浄化

コロナ感染対策における名古屋市の「基本的な方法」について

市役所内の議論で、市長が言うコロナ対策に対する基本的方法が一致点なのか。どのような議論があったのか

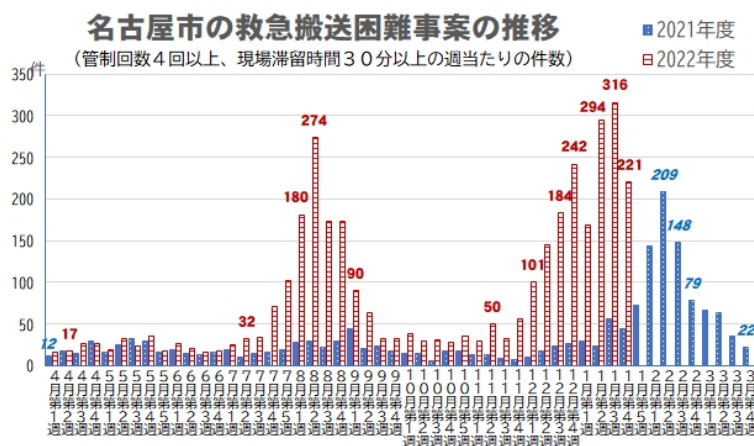
【江上議員】第 1 問は、コロナ感染対策における名古屋市の「基本的な方法」についてです。

コロナ感染が相変わらず広がっているにもかかわらず、岸田政権は、やれ 5 類にするとか、マスクを外すかどうか、という形で、さも、コロナ禍が縮小しているかのような印象を与えています。そして、コロナ禍の現状がどうなっているのか、私たちへの情報発信がなされないままになっています。5 月 8 日、コロナが第 5 類に分類されるということですが、ゴールデンウィーク後のコロナ感染の広がりとその対応を心配するのは私だけでしょうか。せめて、名古屋市が、市民の命と暮らしを守る立場でコロナ対応することを求めて質問します。

1 月 23 日の名古屋市の定例記者会見で、河村市長は、「まあ、元気にみんなで一杯飲んでカラオケ歌って自然免疫をきちっとつくるということは、基本的方法」と発言しました。当時のコロナの状況はどうであったか。1 月 9 日から 15 日の週の、救急車が搬送困難の事例が過去最多の 317 件です。10 日には、急病で救急搬送を要請したが、受け入れを 32 回断られ、227 分間現場で待機を余儀なくされた男性もいた、と消防局に確認しました。

市の集計だけでも、11 日には、感染者が 4344 人、12 人の方

が死亡です。コロナ禍の死亡かどうかかわからないといわれる方がいますが、コロナ感染者がなくなっているという事実を重く受け止めるべきです。この背景には、高齢者施設での高齢者の感染による対応が問題です。高齢者が感染して、医療施設に移そうにも移す医療施設がない、そこで、高齢者施設で留め置き。感染者が増える。このことによって、高齢者の死亡が増えたのではないのでしょうか。



全国的にも、救急搬送困難の事例が多く高齢者施設でのクラスターが問題となっています。このような時に、河村市長の発言です。市長として大変不見識な発言ではありませんか。

そこで、健康福祉局長に質問します。名古屋市役所内の議論で、市長が言うコロナ対策に対する基本的な方法が一致点なのでしょうか。どのような議論があったのか明らかにしてください。回答を求めます。

病床使用率が 70%前後と医療のひっ迫が深刻な時期で関係者が一丸となって対応してきた

【健康福祉局長】2022 年 11 月から 2023 年 2 月にかけて続いた第 8 波はこれまでの波に比べて長期間続き、ピークの 1 月 6 日には新規陽性者が 4,662 人になるなど、市民の生活に大きな影響を与えました。

健康福祉局としては 2022 年夏の第 7 波を受けて、限られた入院病床の中で、高齢者施設での感染防止や療養生活をいかに充実させていくかを第 8 波に向けた最大の課題と捉え、取り組んでまいりました。

具体的には、退院促進、入院病床の受け入れ向上のための補助制度を新設したほか、2023 年 1 月には高齢者施設代表者等を対象としたウェブ会議を開催し、新型コロナウイルスに関する医療の現状や施設内の感染対策、療養上の注意点などの共有を図ったところでございます。

ご指摘の市長の発言のあった1月 23 日の時期を振り返りますと、本市の病床使用率が 70%前後と非常に高い水準にあり、医療のひっ迫が深刻な時期でございました。

この間、健康福祉局としては市長と感染状況などの現状を共有し、高齢者施設への対応に留まらず新型コロナウイルス感染症対策全般に関し、市内部はもちろんのこと、福祉施設、医療機関など、市内の関係者が一丸となって対応してきたものと認識しております。

「元気にみんなで1杯飲んでカラオケ歌って自然免疫をきちんと作るのが基本的方法(1月23日の市長定例会見)」という発言の根拠は(再質問)

【江上議員】局長の回答で、市長が記者会見した 1 月 23 日という日は、コロナ第 8 波が昨年 11 月から長期に続き、入院病床が限られている中で、医療のひっ迫が深刻な時期となっていました。私の指摘以上に厳しい状況であり、病床、ベッドの不足が深刻であると改めて感じました。

そこで、市長に質問します。このような深刻な事態をいかに解決するかが求められている時、市長の記者会見発言は、飲みに行くなど、感染を広げることにつながるような発言だ、という自覚はありますか。答弁を求めます。

自然免疫というのは、感染症対策の基本中の基本

【市長】1 月 23 日の発言は、新規陽性者数は 1 月第 1 週をピークに減少になっている。そういうことより、コロナに限らないが感染症にかからない方法としてはワクチンとか薬とかがもっ

と早くできるといいが、やっぱり自然免疫を人間が持っていて、それをみんな否定してしまっ、学校でもやんやと言われていましたが、うちでじっとしとれと、そういうことは実は危ないということを。私は非常に的確な発言だと思います。こういうことを言っている専門家の医者もかなりいる。あなたの言っている話ではいかんという人もたくさんいますよ。みんな元気になってちょ、自然免疫をつけてってちょと、いうことを言うのは、感染症対策の基本中の基本です。基本ですよと言っています。

時期を考えろと言っている。市長として不見識だ

【江上議員】私は自然免疫を否定するものではない。時期を考えろと言っている。市長として不見識だ。発言の撤回を求めています。

名古屋城天守閣木造復元の財源を含めた収支計画の見直しについて

コロナ禍で入場者数の見直しや収支計画の見直しが必要ではないか。整備基本計画を申請するなら、財源についても示す必要があるが、いつまでに示すのか

【江上議員】第2問は、名古屋城天守閣木造復元の財源を含めた収支計画の見直しについてです。

戦後復興の象徴である現名古屋城天守閣を解体して、木造天守再建を目指す「名古屋城跡 木造天守整備基本計画」を名古屋市は、今年度中に策定し、文化庁に提出しようとしています。私は、市民合意のない天守木造復元でなく、「天守は耐震改修と博物館機能の充実」、東北隅櫓など焼失した施設を復元する名古屋城全体の整備計画とその実現を求めてきました。

河村市長は、木造天守を強引に建設しようとしています。しかし、基本計画そのものについては、穴蔵石垣の保存方針や木造天守と穴蔵石垣との接点に当たる基礎構造の在り方などまだまだ問題が残されたままです。問題の解決もないままの基本計画を文化庁に提出することは、もちろん認められません。さらに、基本計画は、木造天守再建を文化庁が文化財保護法に基づいて特別史跡の「現状変更許可」を行うかどうかを求めるものであって、名古屋市の施設として再建するには、財源を含めた収支計画も含めた市の計画が必要です。昨年の9月議会でも財源について質問しましたが、改めて質問します。

木造復元の財源について、市は、昨年の9月議会でも、「天守閣木造復元にかかる財源は入場料収入で賄っていくとの方針」と収支計画の変更はないと答弁されています。

収支計画では、建設費に500億円以上、維持管理費含めて、50年間で1000億円の費用が必要です。年間で20億円を充てなければなりません。建設費に充てるのは、入場料収入の75%と計画しています。入場料は、毎年25億円以上必要という計算です。入場者数は、入場料収入を市民450円、市外観光客1000円と想定して、360万人が50年間続くとしています。では、実態はどうか。コロナ前の2018年度で入場料収入約8億5千万円、220万人の入場者でした。木造復元の収支計画

は、あまりに過大な入場者数を前提にした計画ではありませんか

その上に、2020 年からのコロナ禍です。距離をとって観覧するのは当たり前です。外国からの交流人口も大きく変化するでしょう。国宝にまでしたいという施設ですからゆったり観覧でき、ていねいな維持管理が必要です。ますます入場料で賄えず、税金投入はさらに必至ではないでしょうか。毎年度 10 億円を優に超える税金投入もあり得るのではないのでしょうか。

そこで、観光文化交流局長に質問します。コロナ禍を受けて、入場者数の見直し、収支計画の見直しが必要と考えていないのでしょうか。回答を求めます。

そのうえで、天守木造復元を実施しようというのであれば、文化庁への基本計画の「現状変更許可」申請とともに、市民に財源を含む収支計画について示す必要があります。いつまでに収支計画を示されるのでしょうか。観光文化交流局長に質問します。

特別史跡名古屋城跡の魅力を積極的に発信し集客を図る

【観光文化交流局長】名古屋城は本市を代表する観光施設であり、入場者数は 2018 年度、2019 年度においては 200 万人を超えておりましたが、コロナ禍による観光需要低迷の影響を受け、2020 年度には約 52 万人、2021 年度には約 69 万人となり大きく減少しました。

しかしながら、今年度において渡航制限の大幅な緩和や、全国旅行支援、シャチ泊といった観光需要喚起策により、観光需要は回復傾向であり、名古屋城においても秋の夜間公開による日常とは異なる魅力創出を試みるなど、新たな取り組みを実施することで、2023 年 1 月末には入場者数が 100 万人を超えるまで回復してまいりました。

ご指摘の入場者数は名古屋城に入場いただく人数であり、今後につきましても、木造天守だけでなく二之丸庭園等、城内の整備とプロモーションを両輪とし展開するなど、特別史跡名古屋城跡の魅力を積極的に発信し集客を図ることで、税投入ではなく、入場料収入によって名古屋城木造天守閣事業における財源を賄っていく方針でございます。

そのうえで、新たな収支計画につきましても、来年度以降、文化庁において復元検討委員会が開始され、新たな管制期限を定めることができる段階となりましたら、その完成期限に基づく収支計画を作成し示してまいります。

名古屋城木造天守閣事業は税投入なしでは無理。本事業を中止すべきであり、撤退を求める（再質問）

【江上議員】木造復元は、入場料で賄っていき、入場者数の見直しについて見直しをするとは回答されませんでした。入場者は、天守だけでなく、二之丸庭園など、城内の整備等も進める中で増やしていくともいわれました。これ以外にも名古屋城に係る整備予算が提案されています。そのような整備には莫大の費用が必要です。しかし、天守木造化が毎年 10 億円以上税金投入となったら、全体の整備が進められるのでしょうか。全体の整備のためにも、天守木造化は中止すべきです。

そこで、市長に質問します。今提案されている名古屋城全体の整備を行うというのであれば、天

守木造化を進めるべきでないと考えます。天守木造復元は中止するのが名古屋城全体整備を進める道ではありませんか。回答を求めます。

図面も完ぺきに残っているのに復元しないのは市民の任務だ

【市長】こうなってくると共産党の意見なのか江上さんの意見なのか答えてほしい。一人の名古屋の人間として、国宝1号だったお城が図面も完ぺきに残っている。こないだある学者が言っていたが、図面もすごい写真もすごい、そういうものがある場合、それをもう一回、戦争で燃えたんだが、木の文化だからしょうがないがね、それを元の状況に戻して、もう一回国宝にして1000年は大事にしていくという任務があると思わないのかね。名古屋市民として。

資料があるから木造天守復元ということにはならない。中止すべきだ

【江上議員】先人が準備した資料は大変貴重なものだと思う。全国でも名古屋城しかないことは言える。だからと言って木造天守復元の道ではない、これは中止すべきと申し上げておきます。

木曽川水系連絡導水路事業について

揖斐川のおいしい水確保：木曽川水系の水と揖斐川とどのような違いの「おいしさ」なのか

【江上議員】第3問は、木曽川水系導水路事業に対する河村市長の発言についてです。

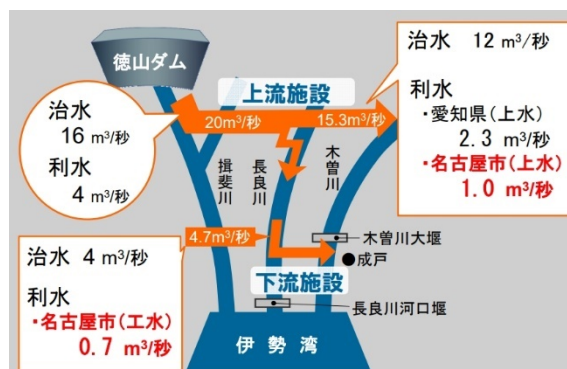
市長は2月14日、記者会見で、「使わん水に市民の税金や水道料金を払ってええのか。徳山ダムにも反対したけど、できた以上は生かす道がないか考えるのが市長の仕事だ」という趣旨の発言をし、「水余りだ」と言って凍結していた木曽川水系連絡導水路事業を

再開したい、と発表しました。理由は、水余りの主張は変わらないが、新たな目的を目指すということで、1 揖斐川のおいしい水の確保 2 豪雨時の治水対策 3 堀川浄化 の3点を挙げています。

市民団体は2月16日、河村市長に対して、「無駄に無駄を重ねて川を殺す『徳山ダム導水路』建設容認という河村市長の『方針転換』という愚に抗議する」という抗議文を発表しました。

徳山ダム建設は総事業費約3300億円で、市の負担分は525億円、そのうち429億円を市は支払い済みで、残り約97億円。これに加え、今後も年2億円の管理費を支払い続けます。

導水路事業を再開すれば、130億円の支出と報道されていました。おや、と思ったのです。今まで、



木曽川水系連絡導水路事業(2009年説明会資料)	
目的	治水 16 m³/秒 利水 4.0 m³/秒
事業費	890億円
名古屋市負担	121億円(うち国補助39億円)

経済水道委員会の審議で、上下水道局は、水道事業で 50 億円余、工業用水道事業で 30 億円余の計 80 億円余の建設費の支払いと回答していました。じゃ、後の 50 億円は何か。上下水道局に質問しました。そうしますと、揖斐川から直接名古屋市に水を持ってくるために 50 億円必要だということです。徳山ダムから木曽川の上流部への導水路事業による導水管を利用して、木曽川に接続する直前に直接名古屋市に導水管を敷設し、揖斐川の水を直接名古屋市に導水する。その費用が 50 億円ということです。徳山ダムの 97 億円と管理費、それに加えて導水路事業で 80 億円、さらに、市の独自策の 50 億円。現時点で総事業費はもっと増えると思われます。徳山ダム、導水路、そして、独自の導水管。無駄に無駄を重ね、さらに、無駄を重ねるもので、「無駄の三重奏」ではありませんか。

名古屋市の水道給水事業の現状はどうなっているのでしょうか。名古屋市の給水可能量は、木曽川だけでも 1 日当たり 160 万トンあります。水需要は、一日最大給水量を 2015 年度で 124 万トンと予測しましたが、2015 年度の実績は、約 87 万トンでした。コロナ前の 2019 年夏で 81.7 万トン、昨年夏は 82.2 万トンです。給水可能量の半分です。渇水時が心配だといいます。1994 年の「平六の大渇水」と言われる大渇水時でも、木曽川だけで 81.6 万トンの給水が可能でした。当時、電力会社や農業用水の協力もありました。利用者も自重します。大渇水でも木曽川だけでやっていける計算です。

そこで、上下水道局長に質問します。

1 点目に、揖斐川のおいしい水の確保という点です。木曽川の水がおいしいといわれていますが、揖斐川と木曽川で「おいしさ」に違いがあるのでしょうか、また、木曽川の水が余っていても持つてくる理由を明らかにしてください。

揖斐川の水は、木曽川と同等以上に良質

【上下水道局長】 揖斐川のおいしい水確保について、揖斐川の水は、木曽川と同等以上に良質です。さらに、揖斐川流域は、人口や事業所が少ないことや、揖斐川の取水付近は、木曽川の犬山取水場付近に比べて、国により高い環境基準が設定されていることから、将来にわたり水環境が維持されるものと考えております。

そのため、新たな水源として追加することで、この先も安心・安全でおいしい水道水を安定して供給することができると考えております。

また、揖斐川の水を直接取水できるようにすることで、災害などで木曽川から取水できない場合でも揖斐川から水の融通ができるため、水源の多系統化の効果を最大限発揮できると考えております。



治水対策：木曽川水系でダム放流後に見込んでいた量の雨が降らなかった例はあったのか

【江上議員】2点目に、市長が「豪雨が見込まれる際は、木曽川上流のダムから事前に水を放流して流域の被害を防ぐが、見込んでいた量の雨が降らなかった場合でも導水路を通じて揖斐川から水を引いて木曽川の水量を確保できる。」と発言しました。木曽川で、市長が言うようなダム放流して、見込んでいた量の雨が降らなかった例が、今まであったのか明らかにしてください。

3回とも事前放流後に降雨があった

【上下水道局長】「治水対策」について、これまで、木曽川水系では、2020年度に締結した事前放流の実施方針等に関する「木曽川水系治水協定」に基づき、事前放流が3回（2020年7月豪雨、2021年8月の大雨、2022年台風14号）実施されましたが、いずれの場合も、事前放流後に降雨がありました。

一方で、気象情報から事前放流を実施する態勢に入ったものの、結果として事前放流に至らなかった事例が多いことや、気象庁の資料によると、線状降水帯の予測確率は、3割程度と低いことから、正確な雨の予測は大変難しいと認識しております。

こうした現状や近年の水害の激甚化等を踏まえ、今回の提案は、現在の事前放流とは異なり、木曽川の治水能力をさらに向上する施策として、新用途の導水を通じて河川の流況を確保することを前提に、積極的な事前放流等を行い、ダムの洪水調整機能のさらなる強化を図るものです。

堀川浄化：木曽川から堀川へ流す実験をしたが、効果や課題は

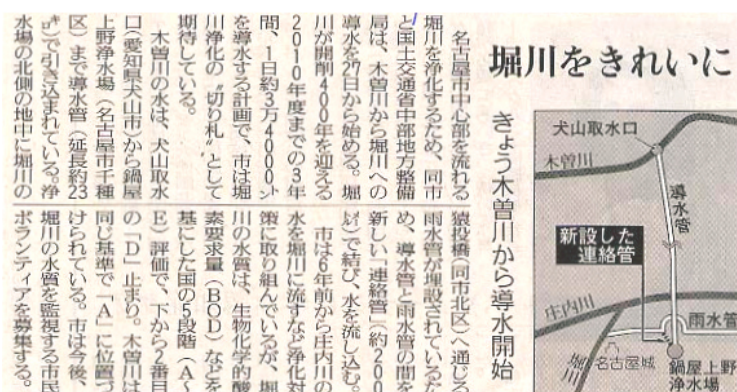
【江上議員】3点目に、緑政土木局長に質問します。堀川浄化についてです。以前、木曽川から上水道を通じて鍋屋上野浄水場まで引き、その後雨水幹線を使って、堀川へ流す実験をしています。一日当たり最大どのくらいの水量を流したのか。その効果がどうであったのか。実験の結果、どのような課題が明らかになったのか。回答を求めます。

水質の改善にはなったが新規水源の確保が必要

【緑政土木局長】堀川では、木曽川導水社会実験として、2007年4月から2010年3月までの3年間導水を行い、導水後の事後調査を2012年3月までの2年間実施した。

導水量は最大で毎秒0.4m³、一日当たり約3万4千m³であり、導水の効果としては、堀川中流域の納屋橋付近まで、水質の改善を確認しました。

現在、河川整備に合わせたヘドロ



2009年3月27日 読売新聞

の除去や合流式下水道の改善、瀬・淵の設置による直接浄化などの浄化施策を進めているが、課題として、河川整備計画における水質目標値を達成するためには、新規水源の確保が必要であることが判明している。

国交省のダム管理能力を信用しない議論だ。市長があげる3つの提案に根拠はない。導水路事業再開発言は撤回を（再質問）

【江上議員】おいしい水は、木曽川も良質であることに変わりありません。余裕がある木曽川の水で、市民は十分おいしい水を飲むことができます。

ダムの事前放流後に予測していた雨が降らなかったことは「協定」に基づく事前放流が行われるようになったこの3年間はない、と回答がありました。「ダムが空になったら」ということで例に出されましたが、例はないし、そもそも国土交通省の河川管理者としての管理能力や情報能力を信用しない発言に聞こえる。また、1994年の大渇水で、ダムの水が空になっても80万トンの給水可能量があったのは質問で述べたとおりです。

木曽川の水を使った堀川の浄化実験では、堀川の浄化に効果があったことは示されました。一日当たり最大で約3万4千トンの使用でした。木曽川の給水可能量はまだ80万トンあるわけですから、木曽川で十分賄える量じゃありませんか。

市長の提案では、「堀川への恒久的な導水」を求めています。河川の水を使うということに関しては、水利権の問題があると考えます。

3つの提案は導水路を再開せんがために過去の事例から見ても根拠はないし、施策を進めていると言われたが解決に至っていない。水利権という大変大きな問題を含む発言であり、市民を惑わすような発言は認められません。

さらに問題がある。今年度から水道事業が赤字になっている。9億円。来年度も赤字で計上している。コロナ過で事業所の水利用が減っているだけではありません。これから少子高齢化問題もあります。経営が厳しくなっている。市民に安心・安定した水の供給のためにも、支出を減らすことが必要な時です。その時に過大な水需要予測、かつ市長の新たな取り組みでさらに支出を増やす、こんなことは許されません。明治用水や静岡の事故を例に挙げて再開の理由にしているようだが、しかし、原因がどこにあったのか、どうしたらいいのか、そうした究明をもっと行うことが必要です。今新たな施策を持ち出す段階ではありません。

そこで、市長に質問します。今回の発言は撤回することが市民への水道供給の安心・安全につながります。発言の撤回を求めます。

撤回しません。作ってしまったものを無駄にしない提案だ

【市長】撤回しません。問題は、いろいろ言われたし、私らも反対していた。しかし作ってしまった。僕が作ったわけではないですよ。大体700億円ぐらいかかる。水道料金とそのほかのお金を入れて、1人300円ぐらいずつです。ずーと払わなければいけない。たまたま値上げをしていないからちょっと

目にはわかりませんが。作ってから学者にも毎年のように意見を聞いている。どうしたらいいんだと。毎年2億かかるし、実際ずっと払っていくとトータルで700億円だと。どうしたらええんだれ。まさか壊すという話はないわね、そりゃないでしょと。とか、毎年のように聞いていましたし、ここに至る辺の、割と近いところでも相当何度か、前からお付き合いがある反対派の意見聞いて、どうしたらええんだ名古屋は、この700億のお金を、といたら、全員ではないが一人の人は何でもいいからやめればいい、金なんか払わんでいいといった人もいる。たぶん、それはできんと思います。僕じゃないが正式に名古屋市が約束していますので。払い続けられないかん。裁判やったら負けだと思いますけど。それはできんじゃないのというのが一つ。もう一つは、みんなで相談して活かすなら活かすという方向で考えたらどうかという話もありまして。用途を変え、名前も変えようという方が名古屋市民のために一番なるんじゃないかと。決してほかっておくことが名古屋市民のためになるとは思えません。伊勢湾の浄化につかったらどうかという意見もあったが、どうやって使うんだという話になって具体的な案にまで行かなかった。そういうことで今回は一つの提案ですがさせていただいた。税金を無駄にしないようにしていくのが市長の仕事なのでそういう立場で一定の判断をさせていただいた。

過大な投資でなく、コロナ禍と物価高騰から市民の命と暮らしを守る名古屋市政実現に全力を（意見）

【江上議員】市民に安心・安全な水を供給するというのが名古屋市の使命だということは十分承知している。これを継続的にやっていく必要がある。429億円、この支出について日本共産党は反対したが、木曽川導水路事業ももちろん反対しています。さらに新たに50億、これも反対です。安心・安全な供給、これからの少子高齢化、こういうことを考えたらここでしっかりと止まって、もっと議論する、他市町村とももっと議論する、丁寧な行動こそ市長の見識だと、私は思います。

3つの項目について市長に対して、発言の撤回や事業の中止を求めましたが、認められませんでした。過大な投資でなく、コロナ禍と物価高騰から市民の命と暮らしを守る名古屋市政実現に全力を尽くすことを申し上げて質問を終わります。